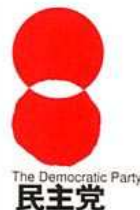


元気な草加 優しい越谷

衆議院議員・弁護士

細川律夫



NEWS LETTER

2006年6月16日 No.116

細川律夫国会事務所 TEL 03-3508-7513 FAX 03-3593-7148

細川律夫後援会本部 TEL 048-966-5115 FAX 048-965-8818

E-mail : g04091@shugjin.go.jp ホームページ : <http://minshu.org/hosokawa/>

通常国会、懸案を積み残し閉会

今年の通常国会の会期は6月18日までとなっていました。この国会では、高齢者に負担増も求める医療制度改革法案などが成立しましたが、教育基本法案、国民投票法案、共謀罪新設法案、社会保険庁改革法案など、重要法案は軒なみ採決に至らずに終わりました。

細川律夫代議士は、前半国会は予算委員会の野党筆頭理事として、後半国会は法務委員として活躍、国土交通委員会を加え11回の委員会質疑と、民主党修正案への答弁、附帯決議の提案などをしました。

共謀罪は継続審議

法務委員会のメインテーマは共謀罪の新設を含む刑法・組織犯罪処罰法等の改正案でした。テロなどの越境犯罪対策のための条約を批准するという目的で国会に提出されたものですが、共謀だけで逮捕もありうるという内容に世論は強く反発しました。

強行採決による国民からの批判を避けたい与党は、民主党に修正交渉を提案し、5月29日から、与野党各3名による実務者協議が行われました。細川律夫議員は民主党の1委員としてこの協議に加わり、国民の不安をなくすため、どんな修正をしたらよいか、という点で意見交換をしました。そして、与党は民主党修正案に賛成するので採決を、との提案に至りました。いわゆる民主党案の丸呑みでした。しかし、麻生外務大臣の「民主党案では国際条約の批准はできない」との発言などにより、民主党は政府・与党に対し大きな不信をいだき、与党の丸呑みとい

う奇策も空振りに終わりました。民主党は廃案を求めましたが、結局は継続審議となり、この続きは秋の国会に引き継がれます。

バリアフリー法案で議論

6月9日、細川議員は国土交通委員会で、政府が提出したバリアフリー法案について質疑しました。

この法案は、従来の交通バリアフリー法と建築物対象のハートビル法をまとめ、今までより広い範囲でバリアフリー化ができるようにしたものです。

細川議員はこの質問で、「移動する権利」を法案に明記すべきである、と北側国土交通大臣に迫りました。また、車いすなどの装備を伴った障害者の乗車等を拒否してはならない、との規定を置くべき、と主張しました。

国土交通委員会で
答弁する北側
国土交通大臣



質問する
細川律夫議員

保険金殺人を見逃すな

委員会には法案審議以外に一般質問と呼ばれるものがあり、国政上の課題について自由に質問することができます。6月13日、法務委員会でその一般質問の機会があり、細川議員は50分間、かねてから手がけている死因究明について、法務省、警察庁、厚生労働省に質しました。

科学的手法で検視を

冒頭、「認知されない犯罪もあり、特に殺人事件が認知されずに終わっているなら、死因究明制度に問題があると思う。」と言って、警察に届けられた死体の検視や検案が十分ではないと指摘し、検視の際、「五官による」といった前近代的定義を改め、CTのような科学的手法を用いるよう求めました。

死体検案書料の不公平を質す

また、自然死以外の場合、医師に「死体検案書」を書いてもらうのですが、この費用が10万円以上取られる地域から、東京23区のように無料のところまでであるという格差について、「そんなに差があってはおかしい」と指摘、厚生省から「関係者と相談する」との答弁を得ました。



6月13日、法務委員会で質問する細川議員

千葉の中毒死事件を問う

次に、千葉の民事裁判で裁判所が「保険金目的で男性を薬物中毒で死亡させたと推認できる」と判断した事例に基づき、2度にわたり警察や医師が殺人を見逃している可能性が強いと主張しました。1995年の事件は、第一発見者が保険金の受取人である、という疑わしいものにもかかわらず、警察は「犯罪性なし」として司法解剖もしませんでした。2度目の事件も医師が中毒死を疑ったものの警察に届出もせず、保険会社の指摘で初めて警察が知ったというもので、「殺人見逃し」の可能性の強い事例です。警察庁も、1998年の捜査に加え、一般的な答弁のなかでしたが、95年の件も捜査を継続していることを示しました。

この事件を踏まえ、死体調査の際、薬物検査が十分に行われていない例、臓器や血液など、後に証拠として再調査できる試料の保存に関する規定がないことなどを指摘しました。

悪いやつを眠らせてはならない

そして最後に、「悪いやつを眠らせないように犯罪行為に対してはしっかり摘発してもらう、そのためには国として死因究明制度を充実させる、そういう制度も含めまして検討をしていただきたい」と言って質問を終えました。

細川律夫より一言

お元気でしょうか。
小泉内閣最後の国会もいよいよ閉
会です。五年間の功罪は色々別々
ですが特にアジア外交と格差の拡
大は大きな失敗でした。民主党は
昨年の選挙敗北やX-1の是非など
を克服し小沢一郎代表のもと次
の参院選・総選挙で政権党にな
るよう頑張のみです。御慈愛下す。